

SDGsとは

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2024/3/5

宮交HD グループブランド推進室

1-1 . SDGsとは・・・概要(要旨)

SDGs

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)

・17のゴール、169のターゲット、232の指標

解決すべき地球規模での問題 に対し

対策

持続可能な開発 をすることにより

目標

未来においても住みやすい世界に

1-2. SDGsとは・・・概要(要旨)

SDGs

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)

・17のゴール、169のターゲット、232の指標

<主旨>

世界規模の災害や様々な問題への対策を立てて、今現在も未来においても住みやすい世界にしようという活動が行われています。それを具体的な目標として定められたのがSDGsです。

<解決すべき世界(地球)規模での問題>

貧困、飢餓、紛争、教育、男女格差、貧富格差、気候変動、自然災害、エネルギー、生物多様性など

<持続可能な開発とは>

将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たす発展を意味します。簡単に言えば、環境を破壊し続けることなく、人びとの消費を支え続けられる世界にすることです。

2. SDGsの構造

経 済

エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などすべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済アジェンダ



社 会

貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の開発アジェンダ



環 境

地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境アジェンダ

SDGsは、
これら環境、社会、経済の3側面から捉えることのできる
17のゴールを、統合的に解決しながら
持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

3. SDGsの特徴

前身のMDGs (Millennium Development Goals: ミレニアム開発目標) は主として開発途上国向けの目標でしたが、

SDGsは、先進国も含め、全ての国が取り組むべき普遍的(ユニバーサル)な目標となっています。(図1)

しかしながら、これらの目標は、各国政府による取組だけでは達成が困難です。

企業や地方自治体、アカデミアや市民社会、そして一人ひとりに至るまで、すべてのひとの行動が求められている点がSDGsの大きな特徴です。

まさにSDGs達成のカギは、一人ひとりの行動に委ねられているのです。



4-1. SDGsの17の目標

SDGs

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

17のゴール 169のターゲット 232の指標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



4-2. SDGsの17の目標



1. 貧困をなくそう
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



4. 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



2. 飢餓をゼロに
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



5. ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



3. すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



6. 安全な水とトイレを世界中に
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

貧困や飢餓、健康や教育、さらには安全な水など開発途上国に対する支援に見えますが、これらの目標は先進国である日本国内でも当てはまることです。

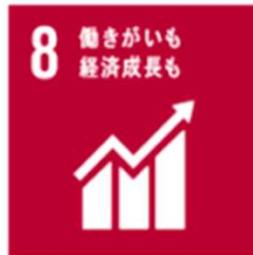
4-3. SDGsの17の目標



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



10. 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を是正する



8. 働きがいも経済成長も
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する



11. 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



12. つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

エネルギー、働きがいや経済成長、まちづくりなど、これらはまさに先進国である日本も密接に関係する目標です。

4-4. SDGsの17の目標



13. 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



16. 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



14. 海の豊かさを守ろう
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



17. パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



15. 陸の豊かさも守ろう
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

気候変動、海、陸に関する事など、開発途上国や先進国だけのことではなく、もっと包括的な目標になっています。

5. 中小企業でもSDGsへの取り組みが広まる

大企業は、SDGsやESGへの対応を目的に、自社のサプライチェーンに潜む社会や環境に悪影響を及ぼす要因を特定して解決を進めています。

そのため、大企業が中小企業に対してSDGsの指標に対応することを求めるようになっていきます。
その要因の1つが大企業によるサプライチェーンの見直しです。

私たちのまわりにあるものはサプライチェーンによって地球規模でつながっています。そのため中小企業であっても地球規模の視点での取り組み(SDGsの指標に対応すること)が必要となっています。

＜サプライチェーンとは＞

「原材料・部品調達→生産→物流・流通→販売→使用→廃棄」といった製品が作られてから使用され捨てられるまでの流れを指します。

6. 企業がSDGsを取り組むメリット

企業イメージの向上

- ・SDGsの取り組みが取引先や消費者へ浸透することによる企業イメージ向上
- ⇒価格に左右されない商品やサービスの差別化
- ⇒採用活動への影響

経営リスクの回避

- ・社会問題に対応することにより将来考えられる経営リスクを回避
- ⇒自然災害や戦禍による事業悪化や停止などを回避
- ⇒従業員の働きがいや生産性向上

事業機会の創出

- ・これまでつながりのなかった行政や(競合)他社などに関わり合う可能性
- ⇒SDGs達成に向けた協業による新たなイノベーションを生む契機
- ⇒イノベーションによる新たな事業機会の獲得

7. 企業がSDGsに取り組むメリット (2022.12.20経営者連絡会より)

企業としての社会的な責任

- ・安全対策や環境負荷低減への取組は、社会の要請でもあり企業目的とも一致する。
- ・社会的な要請であるSDGsに取り組むことで、進取の企業イメージをアピールすることも可能。

ステークホルダーの共感

- ・世界共通の価値観に基づく活動であり、事業計画の各取組みに対する理解・納得感が得やすい。
- ・グループ全体で取り組むことでグループへの帰属意識を高めることができる。

本業による利益創出

- ・環境や社会に配慮している商品や企業活動は、利用者選択のひとつであり売り上げ・利益への貢献に期待。
- ・ペーパーレス化への取組みはSDGsの取組みそのものであり、より深化させていく動機付けとなる。

8. 私たちにできること

- ・支援団体へ寄付する: 非営利団体を支援する
- ・ボランティア活動に参加する: 支援団体が募集しているボランティアに参加する
- ・無駄なエネルギーを消費しない
 - ・節電、節水を心がける
 - ・自家用車ではなく公共交通機関を利用する
 - ・食品ロスの削減(食べきれぬ量の食料を購入する)
- ・地産地消を心がける
 - ・輸送中の排気ガス削減
 - ・地元経済への貢献
- ・エコバッグやマイボトルを持ち歩く: プラスチックごみの削減
- ・情報発信を行う: SDGsを理解する人を増やす
- ・再生紙の利用: コピー用紙、名刺、パンフレット
- ・ペーパーレス化
 - ・紙媒体文書の電子化(紙媒体の削減)
 - ・業務の効率化(時間の効率化)

9. 宮交グループの取り組み

宮交グループ SDGs への取り組み

<https://www.miyakoh.co.jp/hd/eco.html>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

